

6. おわりに

ネットワーク・マネジメントの標準化は、OSI 管理と SNMP とも開発が一段落した段階であり、今後は、具体的な管理アプリケーションに対応したアンサンブルの開発や OSE 環境での分散システム管理等の検討がさらに進むものとする。いずれにせよ、実際的で有効な標準化活動が求められており、今後の進展を期待したい。

最後に、本稿の執筆にあたり、ご協力を頂いた NTT 情報通信研究所吉田真氏、松下正彦氏に感謝の意を表したい。

参考文献

[1] 吉田真, 勅使河原可海: ネットワークオペレーションとマネジメント, 電子情報通信学会誌特集号「フレキシブルネットワーク」 Vol. 77, No. 4, pp. 416-423, 1994年4月.

- [2] INTAP: ネットワーク管理セミナーテキスト, 1994年11月.
- [3] ISO/IEC 10165-1: Information Technology Open Systems Interconnection Structure of Management Information, Part 1: Management Information Model, Aug. 1991.
- [4] RWS-TR 002: Framework for Conformance and Testing of OSI Management Profiles, July 1993.
- [5] NM フォーラム, 吉田真訳, テレコム高度利用推進センタ監修: ディスカバー・オムニポイント, 電気通信協会, 1993年3月.
- [6] NM フォーラム, 吉田真監訳: ネットワーク管理システムオープン化戦略, テレコム高度利用推進センター, 1994年6月.
- [7] NM フォーラム, 吉田真訳: ネットワーク管理システムのビジネス戦略, テレコム高度利用推進センター, 1994年6月.

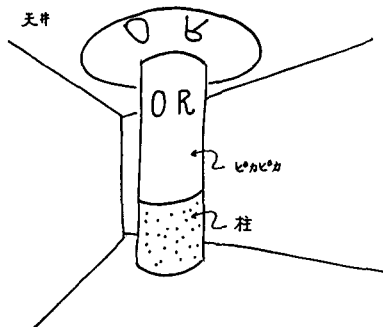
●ミニ●ミニ●

●OR●

アナモルフォーゼ

16世紀のヨーロッパで透視図法が確立されると、17世紀中葉から18世紀にかけてアナモルフォーゼが流行した。遠近法の鬼っ子である。正面からみても何だか良く分からない壁画がある。視点を壁面に近づけ視線を壁面すれすれの方向に向けると、そこに人物像が浮かび上がる。グロテスクに変形された模様を円筒形や円錐形の鏡に写してみると文字が見える……といったもので、芸術的価値はともかく、当時の知的遊戯であったようだ。曲面状の鏡に写して初めてまともに見える絵を画くには、幾何学と用器画の粋を凝らさねばならない。

昨今では、このような種類の絵は流行らないが、使い方によっては面白い効果が期待できる。JR東京駅構内には「銀の鈴」という待ち合わせ場所があるが、あんな場所に使えばよい。広間の真ん中にピカピカの円柱を立て、天井に画いた、訳の分からない絵をこれに写してみると意味のある絵になるのである。何なら、円錐形や他の形の鏡を、鍾乳石のように、天井から吊



るしてもよいし、天井の絵を回転させてもよい。天井の絵なども、その輪郭に関するかぎり、コンピュータの助けを借りれば訳はない。何を画き、どのように美しく仕上げるのかは、芸術家の腕の問題だが、下手クソでも目印にはなる。

このアイデア、どなたか使って下さいませんか？完成式にご招待頂ければ、アイデア料の請求はいたしません。

(からくり堂主人)